

付録 別表2 MPAA を反復投与した一般毒性試験（短～中期毒性）結果の概要

動物種	ラット	性	雌雄
系統	Sprague-Dawley		
投与方法	強制経口投与		
投与期間	28日間		
投与量	0、2、5、15 mg/kg/day		
動物数	10、5、5、10匹		
主な影響	<p>15 mg/kg/day 群</p> <p>雌雄：体重↓、摂餌量↓、総胆管の拡張及び増殖性炎</p> <p>雄：死亡（3/10匹）、振戦（死亡前日）、赤血球数↓、ヘモグロビン濃度↓、ヘマトクリット値↓、アルブミン↓、A/G比↓、尿素窒素↑、<math>\gamma</math>-GTの増加傾向、精巢上体重量（絶対）↓、腎臓重量（相対）↑、肝臓の白斑、腎臓の黄斑、骨髓造血細胞の増加、肝臓の胆管増生、グリソン鞘の炎症性細胞浸潤及び肉芽腫性炎、腎臓の硝子円柱、皮髄境界部の線維化及び尿細管の壊死、皮質の再生性尿細管</p> <p>雌：クロール↓、脾臓重量（相対）↓</p>		
	<p>5 mg/kg/day 群</p> <p>雌雄：影響なし</p>		
	<p>2 mg/kg/day 群</p> <p>雌雄：影響なし</p>		
回復試験	14日間（対照群：雌雄各5匹、15 mg/kg/day 群：雄4匹、雌5匹）		
回復性	ほとんどの変化は投与の休止によって回復性あるいは回復傾向が認められたが、15 mg/kg の総胆管の拡張及び増殖性炎については、回復性を確認することができなかった。		
備考	DPAA よりも毒性は低いと考えられた。		
出典	環境省（2011）：ジフェニルアルシン酸（DPAA）の毒性試験報告書（第2版）		